

## コンプレックスレポート

はじめまして、くまです。

このレポートでは僕が大学生にしてなぜビジネスを始め、  
どのような経緯で現在に至るのかについて、  
話をしていこうと思います。

現在僕は21歳で、現役の国立大学の学生です。

理不尽なバイトを辞めて、  
今は主にカフェとか家とかコワーキングスペースでパソコン1台で  
ビジネスをしています。

いつでも、どこでも、インターネット上でビジネスができるのですご  
いなーと。

今の時代に生まれることができて本当に良かったです。

僕は

- ・ライターさんを雇ってサイトを運営
- ・amazonやメルカリ、ヤフオクなどを使って物販
- ・自らブログやyoutubeで情報発信
- ・ベンチャー企業のマーケティング業務
- ・ビジネス系個人コンサル

などをやっていて月収50万に到達することができました。

「えっマジ!？」

おそらく驚く方が多いと思います。

大学生ならバイトで稼いでいる人でも10万円前後です。  
常識的に考えたらおかしいと思います。

大学生で月収50万円とか怪しすぎますよね。  
僕も最初は信じられませんでした。

しかし今ではこのような一見、非常識な世界が当たり前になり  
日々充実した生活を送っています。

僕のモットーは「自由であれ、充実であれ」です。  
ビジネスを始める前と比べて、現在は明らかに自由で充実しています。

僕はもともと大学生のうちにビジネスをやるなんてことは全く考えたことがありませんでした。

僕の中でビジネスをすることは、  
資金や人脈が必要だったり、  
リーダーシップがあったり、  
コミュニケーション能力が高かったり、  
すごいアイデアを思いついたりで、  
選ばれし人間にしかできないものだと思っていました。

当時の僕は、どう考えても自分がビジネスに向いていると思って  
いませんでした。

だって、  
貧乏で病気だし、  
資金や人脈もなければ、  
リーダーシップもない。  
友達が少なくコミュ障だし、  
人の下につく部下タイプです。  
特別なアイデアなんて全くありません。

そんな僕でもある出会いをきっかけに性格が変わり、その後、  
様々な価値観が粉々にぶっ壊れてビジネスを始めることになりま  
す。

果たして何が僕の人生を変えたのか？  
僕の人生をさかのぼって話していこうと思います。

## 始まり始まり～

僕は、1996年に長男としてごく一般的な家庭に生まれ  
た。田舎で貧乏な暮らしをしていました。

風呂は2日に1回、車は雨でも使わない、  
家にエアコンが設置してあるにもかかわらず、真冬でも真夏で  
もエアコンを使ったことのないような家庭でした。

僕は物心がつくまでこれが普通のことだと認識していました。  
でも、幼い頃に価値観の相違が出てきます。

僕はケチなことを普通なことと認識してしまっています。  
だから、友達がみんなジュースを買っても僕だけ買わないし、宿  
泊学習たる行事でもお風呂に入りません。  
友達にバカにされてすねていました。  
心の中では叫んでいます、  
「うるせー、バカヤロー！」って。

でも言い返せないんですね。  
内気で、弱虫だったから。  
幼稚園の時に  
「バーカ、アーホ、ドジマヌケヘンターイクソガキ」  
と悪口を言われたことがありました。

それで大泣きしてしまっただけですよ。

「お前の母ちゃんデベソー」  
といった幼稚な悪口も、僕はまともに受けてしまう子でした。

トラウマなのかわかりませんが、  
今まで人に悪口をほとんど言ったことがありません。

「人に悪口を言ったら相手が傷ついてしまう」  
と自分の心が反応しているのだと思います。  
僕の心の中はかなり内気でした。  
コミュ障です。

それがずっと引っかかってトラウマになったんですね。  
内気なことがコンプレックスになって、さらに落ち込んでしまう。

なので、小・中学校時代には友達とのノリについていけなかったり、  
自分の意見を主張できなかったり、でかなり苦労しました。

僕はもちろん、クラスの人気者といった立ち位置ではなく、  
おとなしい子であったり、教室の隅の方で1人で読書している子と  
話す時間が多くありました。

その子達が内気だったり静かな性格な理由はわかりません。  
もちろん、元々そのような性格の子もいます。

でも、『今まで悪口を言われたトラウマ』などの可能性が高いと思  
います。  
だからこそ、僕と同じような苦い経験をした、似たような性格の子  
の気持ちが強くわかりました。

で、僕はそのような子たちを見てきて、  
自分も含めて将来がめっちゃ不安になりました。

だって、一般的に社会的に成功している人や魅力的な人って元気で、アグレッシブで、頭も良い。  
しかも弱音を吐かなくて面白い。

そういったイメージを持っていました。

僕は内気だったのでどこかのタイミングで絶対に心のストップがかかってしまう。。。

ましては頭も良くなく、  
弱音を吐いてしまうことも多かったので、  
「僕って将来大丈夫か？生きていけるのか？」  
そう思うようになりました。

しかもお金がありません。  
「収入が多くなるにはどうすればいいか」  
ということばかり考えていました。

お金を稼いで、憧れでなんでもできる魅力的な人になりたい！  
そう沸々と感じていました。

僕は、  
「将来お金を稼いで、魅力的で楽しく、元気でアグレッシブに毎日  
を過ごしたい」  
でも、  
「僕は頭良くないし、何でもできる魅力的な人とはかけ離れている。。。」

などと考えながらも特に何もせずに明け暮れる日々を過ごしていました。

ただただ、何か物足りず、自分の心が満たされずになんとか生きていました。

頭も良くなく、当時は相手の気持ちをおしはかるのが精一杯で、口に出したり行動することができませんでした。

なので、  
「自分の心を満たして楽しく魅力的な人になりたい！」という潜在的な目標を掲げていたのだと思います。

当時は、  
「頭が良くなる」  
ことができれば、  
「自分の心を満たして楽しく魅力的な人になりたい！」  
という目標に近づけると考えていました。

なので、  
目標に近づくステップアップするために、  
「頭が良くなる」  
ことを目指そうと思いました。

その後、高校に入り勉強漬けの環境に身を投じることになります。

僕は、頭が良くなったら、  
「自分の心が満たされて魅力的な人間になるのではないか」  
と信じ込み、  
「日本最高峰の東大や医学部に入ればよくね？」などと漠然と考  
えます。

ゆえに、勉強して頭良くなろう。。。  
とって高校1年生になります。

## ここから高校時代の話です。

中学3年生の時に受けた高校受験では勉強をサボって、  
公立高校への受験を失敗し、  
私立高校に進むことになります。

高校に入って初めてのテスト結果は、  
な・ん・とクラス最下位。。。。

学校内の順位も200番目くらいでした。。。。

ぜーんぜんっ、勉強できませんでした。

僕の高校では授業料免除制度がありますが、  
もちろん僕はもちろん免除されるわけもなく、  
友達からヘナチョコアホ扱いを受けながら学校に通ってしまし

た。

当時の僕は残念ながら東大や医学部に入るといった理想とは大きくかなりかけ離れていました。。。

そして、僕は高校1年生の4月にして私立高校の闇を知ります。

高校が勉強を強要してきて、  
毎日8時間授業、小テスト、課題、予習、復習とかいう  
意味不明な状況だったので、  
気が狂いそうでした。

小テストに関しては、毎日クラスの黒板に結果が貼られます。  
で、一定ラインの成績が取れなかった人は課題が倍増するとい  
ったクソみたいな制度でした。

ただでさえ課題の量が半端ないのに、  
成績悪いと課題がさらに増えて気がおかしくなりそうでした

もはや、  
僕にとって、勉強はただの「作業ゲーム」に化していました。

辛すぎます。。。  
高校生がサラリーマンの方々が働いている以上の時間を毎日勉強するのです。

高校1年生から1日10時間以上勉強していました。  
頭おかしいです。

当時、高校はマ・ジ・で、クソだと思っていました。  
学校を爆発させたい気持ちでいっぱいでした。  
「教室がなくなれば、学校に行かなくてもよくなるよな？」  
なんてことを本気で考えていました。

ダラダラしたいし、  
ダルいし、  
何もやりたくない時でも、  
毎日逃がさんとばかりに勉強に追われる日々。

このように、僕は勉強せざるを得ない環境にぶち込まれました。

でも、頭が良くなったら、  
「自分の心が満たされて楽しく魅力的な人になれる」  
という考えを信じて、勉強にのめりこみます。

ただ、  
学校の学習効率の悪いカリキュラムや授業、課題に縛られて  
思っているほど成績が良くなりませんでした。

勉強ばかりやっていると、青春を謳歌している中学校の友達などを羨ましく思って気分が落ち込んだり、やる気がなくなることも多々ありました。

だって、僕は  
高校生らしく恋愛したり、  
部活にどっぷり浸かったり、  
趣味に没頭したり、  
友達と楽しく遊びまくったり、  
といった青春を送ることができないわけです。

だから、  
高校時代に、映画や漫画で出てくるような青春を謳歌している友達をみると、  
悔しかったり、恨んだり、羨ましくなったりしてしまう自分がいました。

でも、嬉しくも恨めしくも学校は勉強をさせるガチガチのカリキュラムが設定しているため、僕は勉強から逃げられませんでした。

ましては、成績が良いと授業料が免除される特典もついていました。

僕の家は裕福な家ではなかったので、  
子ども心ながらも授業料を免除にってもらって親を楽にさせてあげたい、そう思っていました。

他の友達が月に1万円もらっているのに、  
僕はお小遣いをもらっていなかったで、  
親に対して不満ばかりだったのです。

でも、歳を重ねるにつれて家の状況がわかってきたので、  
自分でなんとか授業料免除が取れないか、  
とやる気に燃えた時もありました。

僕は親に対して変な優しさがありました。  
でも、当時親との仲は決して良かったわけではないのですが。

僕は、勉強が最優先事項になり、  
トイレやご飯の時まで勉強をするなど、  
次第に自己中心的になっていきました。

友達からの誘いは遮断し、  
親との会話すらもシャットアウトしました。

Lineは1日に1回しか見なかったですし、  
テレビも見ない。

学校でも、歩きながら勉強していたので、周りの人と会話はしません。

家では、部屋に閉じこもって勉強ばかりする毎日。  
親と話す機会がある、ご飯の時ですら僕は勉強していたので、僕は親と会話をせず。

僕はとんでもない野郎でした。

小中学校の時は内気な子でした。  
一方、高校になってから、内気に加えて人の気持ちがわからない  
高慢な子になってしまいました。

勉強ができて成績が上がれば自分が満たされる。  
そういった気持ちが先行してしまったのでしょ。

僕は勉強第一で、人とはあまり会話しなくなり、  
かなりプライドが高かったです。

さらに、かなーりケチでしたね。  
お金がなくて、お金が欲しくてたまらなかったわけですから。

お金を減らさないことに全力をかけていました。

僕は、  
10km程度なら電車は絶対使わずにチャリで目的地を目指していましたし、

10円でも安かったら別のスーパーで買い物をしていた人間でした。

それだけケチだと、  
ちょっとしたことで友人と揉めたりします。

僕は遊びに行く時も常にケチろうとするので、  
そんなやつ面倒くさいですね。

だから僕は自然と友達に避けられて、  
その結果、友達がほとんどいなくなりました。

さらに、  
プライドが異常なまでに高かったために、  
友達欲しいとも言えずに、  
超つまらない高校生活を送りました。

じゃんけんで負けたら友達の分までジュースを奢るゲームをやっていたのですが、  
僕は負けるのが嫌でゲームに参加しません。

みんなは参加するので僕は仲間から外れます。

おまけに、  
僕は自分で勉強して良い大学に行くことを正義とみなして、

友達づきあいよりも、  
自分で勉強することを優先しました。

結果はわかりますよね。  
友達はもっと少なくなります。

休み時間ですら勉強しているガリ勉です。  
誰からも話しかけられませんし、  
誰も僕と話したくなかったと思います。

数少ない友達が話しかけてくれても、  
「今勉強中だから。」  
と突き放します。  
とんでもない野郎です。

貧乏でケチで、友達がいません。

そんなこんなで、僕はストレスなどの要因で、  
**病気になってしまいました。**

まじで辛かったです。

一つのこと以外に目を向けることができずに、勉強を優先的に考  
えすぎて病気になってしまう、

という本当に不器用で周りが見えていないアホだったと思います。

自分で殻にこもって、周りから離れて勉強ばかりしていたんですね。

僕の病気は、病院に診察に行っても胃カメラなどで検査してもらっても病名がうまく診断されない病気でした。

胃カメラって知っていますか？

胃カメラの検査って、鬼のように辛いですよ。

僕は胃カメラを鼻から入れて、胃の奥深くまで、検査したんですね。

胃カメラが喉を通る時とか、くすぐったいというか、痛いというか、超辛いんです。

なんていうか、指を喉に突っ込んで胃カメラを取りたい気持ちになります。

胃カメラが胃に到達した時なんか、ぶっちゃけ、涙とよだれと鼻水がダラダラ出て止まらなかったです。

本当に辛すぎです。  
本能的にもう色々出まくっていました。

当時高校生だった僕には重すぎる検査でした。  
気絶するレベルの辛さで、今でも鮮明に覚えているほどです。

生々しくてすいません。

でも、それだけ辛かったのです。

辛い経験してまで本当に病気を治したかったのです。

あまり書きたくなかったのですが、この機に僕の病気のことを詳しく話そうと思います。

知ってもらえたら少し心が軽くなるような気がして、思い切って書きますね。

僕は「呑気症」という病気を抱えています。  
別名「空気嚥下症」です。  
原因は主にストレスです。

簡単に症状を話すと、空気がお腹にたまりやすくなるんですね。  
「なんだ、それだけかよ」と思ったかもしれません。  
でも、様々なことに影響があります。

特に、僕は高校の時に病気を患ってしまったので、

それまでは健康体そのものだったわけです。

なので、自分がどれほどのことができなくなったのかを以前と比較しながら、身をもって体感できてしまうわけです。

これって本当に辛いですよ。

だって、普通に生活できる喜びや楽しみを知っているわけですから。

病気を抱えていなかった、毎日の平凡な生活がどれだけ幸せだったか。

どうして健康体に感謝して生きていなかったのか。

そんな昔の僕を恨みましたし、羨みもしました。

天国を知っているわけですからね。

病気とは無縁で、当たり障りのない会話をしたり、のびのび遊んだり、思いっきり運動したり。

もちろん、当時は楽しかったです。

でも感謝はしていなかったのです。

健康体でいることが当たり前だと思っていました。

でも、普通はそのことに気づきません。

病気になって初めて気づきます。  
僕もその一人でした。

病気になって今までと同じ生活ができなくなった時は、  
本当に地獄です。

目の前が真っ暗になります。  
病気なんて考えたことがなかった、超楽しい昔に戻りたくありません。

病気になった時は、どん底に落とされた気分でしたね。

おかげさかもしれませんが、  
超人気ハリウッドスターが病気を患ってしまい、  
一生テレビに出られずに地味に暮らすことになった時の心境と僕は同じような気分になりました。

だって、超人気だった時は楽しいわけです。  
人気者ですもん。

そりゃあ、サインを求められたり、羨望の眼差しで見られたら悪い気はしないでしょう。

それが、病気になって一生地味な生活です。  
華やかな生活とは程遠いですよね。

もちろん、僕はハリウッドスターではないので、その辛さの度合いとは違うかもしれませんが、かなり似ています。

過去とのギャップがある分、心にくるものが違います。

やはり、「あの頃は良かったなあ」と何度も頭の中で考えてしまうものです。

だって病気になってしまった現状から逃れたいですもん。

辛いですもん。  
「なんで僕は生きているんだろう？」  
って何回自分に問いかけたか。

だからこそ、病気を早く治したくてたまらなかつたのです。

せつかくなので、  
僕が病気のせいで悪影響を及ぼすことを簡単に羅列しようと思います。

お聞き苦しいところもあるかもしれませんが。

でも、本当なんですよ。。。

- ・発声がしづらい(話しづらい)
- ・どもりやすい
- ・話すたびにお腹に空気がたまる→気持ち悪くなる→吐き気がする
- ・普通の食事で空気がお腹に溜まって吐いてしまうことがある
- ・食事量が少ないので太れない(痩せている)
- ・姿勢が悪くなる
- ・節々が痛くなりやすい
- ・モテない
- ・運動をすると空気がお腹に溜まって吐いてしまうことがある
- ・運動することが怖くなって不健康体になる
- ・胃もたれしやすい
- ・げっぷやおならが頻繁に出る
- ・頭が回らない(話す気がなくなる)
- ・常にぼーっとしている
- ・常に眠い
- ・自信がない
- ・体調の浮き沈みが激しい
- ・感情の浮き沈みが激しい
- ・これらのせいでプライドが高くなる
- ・素直になれない
- ・病気を言い訳にしてしまう
- ・無表情になる
- ・コンプレックスまみれになる
- ・これらが余計にストレスになる

高校時代の僕は全て当てはまっていました。  
誇張ではありません。  
本当に辛かったです。  
「死にてえええええええ」って何度思ったことか。

マジで名状しがたい辛さです。

健康体の人をどれだけ羨ましがっていたことか。。。  
病気の自分をめっちゃ恨んでいました。

心が全然満たされていないんですね。  
だから、全てを病気のせいにして自己完結させようとしていまし  
た。

しかも、生活はなんとかできてしまうので、周りから何とも思われ  
にくい病気なんです。

友達と話すときに、どもってしまう時があったり、  
吐きそうになっていて、ただただ変な奴だなと思われていた程度  
だと思います。

でも、病気のことは誰にも言わないままひたすら勉強に明け暮れ  
ていました。

そこで僕は親、友達といった周りの人をさらに恨んでストレスを抱  
え、一人狼のようにひたすら勉強します。

僕は、病気になってしまったこともあり、  
コンプレックスが半端なくありました。

でも、病気の辛さはありませんでしたが、なんだかんだいって、高校3年間みっちり勉強しました。

だから、高校時代は特に思い出といった思い出はなくて、とにかく勉強をしてました。

さらに、高校時代に僕は、バイトをしていないので、お金はありません。平日にジュースを買いたくても我慢。

友達はじゃんけんでジュースを獲得するゲームをして楽しんでいる。けど、僕は友達を横目に通り過ぎます。

お金が欲しくてたまりませんが、親がお金をくれるはずもありません。もうひたすら勉強です。それ以外の選択肢が僕にはありませんでした。

はっきりいって、病気も勉強も学校生活も辛すぎたし、周りが信じられずに自分の殻に頑丈な膜を張っていました。

それでも、

「大学受験を突破できれば明るい世界が待っている。」  
「東大や医学部に入ってお金を稼いで魅力的な人になる！」  
というわずかな希望があったため、  
グレずに何とか大学受験まで勉強を続けることができました。

そして、  
「東大や医学部に入れば、高校入試で受かった連中や高校時代に僕を見下していた周りの奴らを見返せる！」  
そんなモチベーションもありました。

ただ、入試直前で高校受験の失敗がフラッシュバックします。。。  
前述したように僕は中学3年生の時に受けた高校受験で第一志望だった公立高校に見事に落ちています。  
だから、受験に落ちるのが怖くて怖くて仕方なかったのです。

「失敗したくない、浪人したくない」  
といった気持ちが先行して安全策を取り、東大や医学部から逃げてしまいます。  
受かる可能性は大いにあったのに。  
そんなこんなで、なぜか近くの難関国立大学に行くことになりました。

ここまでが高校生活です。  
もう、めちゃくちゃです。本当に。

しかも、ケチだし、病気になってしまって、友達も少なく、コンプレックスの塊。

病気になってすごく辛かったです。  
勉強をひたすらし続けて、  
一人で抱え込んで、  
勝手に病気を患ってしまうという。  
自業自得なんですけれどね。

勉強はもちろん、長時間座っているということも困難になってしまいました。

授業とか地獄です。

寝たふりを何度したことか。  
心を休ませなければなりませんでした。  
緊張していると心が圧迫されるため、なるべく何も考えないように意識していました。

つまり、いつも何も考えずに頭の中がぼーっとしています。

ストレスにかなり敏感なんですね。

普通に生活していたら、周りからは気づかれない病気なので、周りからは普通に接されます。

しかも、僕は病気のことを周りの誰にも言っていなかったのも、僕は勝手に  
「病気のことを気づいてくれよ！」とか

「病気の俺をいたわれ！」とか  
考えて変なプライドをもっていました。

さっさと周りに自分の病気のことを話して楽になれば良かったの  
に。

上手く話せなくて、  
みんなの前で話す機会があっても5秒間沈黙になったこともあります。

普通ありえないですよ？  
5秒間沈黙って。

笑うことすらできなくて、すごい微妙な空気になりました。  
マジで生き地獄でした。

電話することも厳しかったです。  
うまく話せなくて、電話を切られたこともあります。  
「あ、、、、あの、そのの、、」とか言っていたら、  
「プツッ」って電話が切れました。  
悲しすぎて、虚しすぎて涙も出ませんでした。

体力もかなり落ちました。

少し走っただけで、息が荒いでしまいます。  
「ゼーハーゼーハー」してしまいます。

たった50メートル走でもかなりの時間休憩する羽目になってしまっていました。

運動をすると著しく眠くなるので、  
体育の後の授業はもう寝ていましたね。  
授業の9割寝ていました。

先生に指された時だけ起きるっていう謎の技術を身につけたのでバレませんでしたw

目覚めも悪いです。  
目覚めが良かった時が記憶にないです。

だから、1日中眠いんですね。  
「お前、目空いてる？」とか言われるレベルです。  
毎日惰性で生活するようになります。  
無気力です。

人間らしさを失っていました。

高校時代はそんなやつでした。

貧乏でケチだから洋服を1年買わなかったり。  
病気で1人で悩んで苦しんでいました。  
そして、トイレでもご飯中でも勉強したり、  
高校1年生から友達が教科書でした。

勉強しすぎて、  
ケツにおできみたいなブツブツがたくさんできましたw

全部マジなんですよ。。。

もう裕福で病気を抱えていなくて、人生を楽しんでいる人が恨めしくて、恨めしくてしょうがなかったです。

当時の僕は  
「頭が良い＝勉強の成績が良い」と認識していましたが、実際は違いますよね。

頭が良いといっても、知識がある、機転が利く、経験が豊富といった様々な頭の良さの種類がありますし、必ずしも頭が良い人がお金を稼げるとは限りません。

ってかビジネスと学校の勉強って全然違うしw

学校の勉強ができるからといって調子に乗ってしまって、ビジネスができない人なんてたくさんいます。  
場合によっては、人望があって人間関係が良好な人の方が稼げるかもしれませんが、体力がある人の方が稼げるかもしれません。

当時の自分はあまりにも安直な考えをしていたのだなと思い知らされます。

## ここから大学の話をしてします。

大学に入ってからとはいうものの僕は周りの友達を見下していました。

「俺はこんな大学なんか余裕で入れるんだぞ、こいつらバカなんだろうな」  
などと思っていました。

別に主席だったわけでもなく、  
入試の点数が良かったわけでもないのに、  
プライドだけはかなり高いので、  
もちろん周りから友達がいなくなり孤独になりました。。。

そして、僕は  
「自分を満たしてあげないと周りに優しくできない！」  
というこじつけを信じて止まらずに大学生活を送るようになります。

「自分を満たす方法とは？」  
なんてことも考えていました。

んで、ちょっと受験に遡ると、  
僕は無事に現役で大学に合格します。

近くの難関国立大学です。(笑)  
高校1年生の頃から1日10時間とか勉強をしていけば効率がいく  
くら悪くても成績が上がるものです。

で、大学に入学して、  
嬉しかったのは、

大学＝勉強なくていいことです。  
(正確には勉強しない人が多いだけ)  
それだけで  
「大学＝神」  
と思えました。笑

僕は大学に入って、なかなか貧乏をさらにこじらせます。

だって、、、みんな金持ちなんだもん。

親が医者ってどういうことだよw

てかなんで1人暮らしで家賃10万のところ住んでるんだよw(田舎です。)

なんで1人暮らしでプリウス持ってんだよw

なんで仕送りで15万ももらってるんだよw

趣味が乗馬ってお前は貴族か。

僕は大学入って、こんな気持ちで生きてました。

大学入っても、  
本質的に僕はケチだったので、  
こじらせまくります。

おまけに、  
国立大生はなんだかんだ言って、  
優秀だし、  
真面目です。

で、僕はそれに対してアホです。

僕は高校時代に、1日10時間勉強とかしていました。  
しかも一時期は、寝る時以外はずっと勉強していたので、1日16  
時間勉強していました。

トイレでも歩きながらでも食事中でもずっと勉強です。  
その代償として、病気になりましたし、コンプレックスまみれになりました。

周りの人たちの多くにも迷惑をかけてしまいました。

さて、僕は「大学受験で点数をとる」  
ための勉強しかしてなかったので、  
本質的にはアホだし、  
高校の3年間も使って勉強して  
やっとの事で国立大学に入りました。

才能があるわけではなかったために、  
露骨に差が出ます。  
僕だけ小テストで点数が取れない。  
みんな勉強してないのに。

再履修する人が4割ってどういうことw  
ってか先輩めっちゃ期末テスト受けてるしw  
みたいなテストです。

ギリギリの評価で単位はゲットしたわけですが、  
あのときはマジでやばかったわ。。。

また、  
真面目な奴が多いから、  
ちゃんと宿題やったり、  
プレゼンの準備したりするんですよね。

それに対して、  
僕はマジでギリギリです。  
当日の朝に全て仕上げようと思います。

宿題が終わらなくて爆発していました。

頭も良くないし、  
宿題終わってなくてダサイし、  
コンプレックスが増えるばかりでした。

僕は愚かなことに、宿題が終わらないのにも関わらず、入試の点数のことばかり自慢して、(大した点数ではないのにw)友達を引き離します。

しかも、病気もこじらせて、素直になれないんですね。  
友達に病気のことを伝えればいいのに、  
無駄に意地を張るから、  
「付き合いづらい奴」と思われていたことでしょう。

当時、僕は人の気持ちを考えようとすらしなかったのも、  
「付き合いづらい奴」と思われるのは当たり前です。

さらに、プライドがかなり高かったのも、どうしようもない奴でした。

その結果、周りの友達が僕からどんどん離れていきました。  
客観的に見て当然です。

「友達が自分のことをわかってくれないだけ」  
と言いつけをしたり、人の気持ちを考えようとしなかったのも、僕は  
なるべくして1人になっていきました。

今思い返すと、  
「僕ってバカなことしていたな。」  
って思います。

さて、僕は物理的にお金がなさすぎたので、  
「お金に困っている生活をしたくない」  
「周りの人とせめて同じ生活がしたい」  
そんな想いがありました。

なので、大学時代にバイトの掲示板を見ては、  
「時給の良いバイト」や「高単価な単発のバイト」をずっと探してい  
ました。

結局は、時給が高いバイトを求めて、勤務地がかなり遠かった  
り、時間が合わない派遣バイトや単発バイトをしていました。

また、派遣バイトや単発バイトだけでなく、時給1400円の塾講師  
や時給800円の居酒屋でバイトをしていました。

他にも治験などの高単価のバイトをして気分が悪くなったり、一日中ほとんど立っているだけの何も生産性のないバイトもしました。

派遣バイトと単発のものも合わせると20近くのバイトを経験したかな。

そのほとんどが単純作業でつまらないバイトだったり、高単価でも条件が悪いバイトばかりでした。

そんなこんなで、  
その後も居酒屋バイトや単発のバイトと渡り歩きましたが、  
都内に出ればすぐにお金が消えるし、  
全然気分は満たされません。

家賃もたった月2万円のところに住んでいて、食費もたったの月1万円。  
わずかな所持金のほとんどは交通費にほとんど消えて、ギリギリの生活を極めます。

数少ない友達に会うためだけに交通費を費やしていました。  
本当に何やってるんだって感じでした。

さて、大学1年生の夏休みに差し掛かった時の話をします。

僕はバイトでもミスばかりで、  
変な気を使われる。  
バイト先に居づらくなって、  
バイトをすぐに辞めていました。

また、  
「付き合いづらい奴」という烙印を押されて、  
友達が離れていきました。

それにより、僕は孤独になって、  
今まで以上に強い自己否定をするようになります。

孤独は辛いものです。  
様々な考えが頭の中で駆け巡ります。

被害妄想もひどくなり、  
影で誰かに悪口を言われているのではないか、  
そんな妄想ばかり膨らみます。

サークルでも  
「自分の悪口を誰かに言われているのではないか」  
と自意識過剰になり、  
夏合宿たるイベントをわざと休みます。

予定があると言って嘘をついて、家で寝込んで被害妄想しまくる日々です。。。

夏休み以降も僕は、  
「自分の心を満たして、魅力的な人間になる」  
という理想の自分からびっくりするほどかけ離れており、  
ただ時間だけが過ぎるといった不毛な時期を過ごします。

そして、将来お金に困らずに生活をするために、  
とりあえずサークルに8団体ほど入ってみたり、  
意識高い系のコミュニティに参加したり、  
東京の数少ない友達とつるんでみたり、  
と訳も分からずと迷走。

結局サークルも続かずに1年生から入っていたサークルは全て  
行かなくなってしまいましたからね。

僕は対して能力があるわけでもないのに自慢したり、  
大学の友達がいなくて数少ない東京の友達と遊んで紛らわした  
りと、  
ほんと、今思い返すとあほやわ。

恥ずかしすぎて記憶を抹消したくなります。

あなたもお気付きのように当時僕は、  
成績が良くないのに授業を数多くとってみたい、  
ただただ東京に足を運んでいた、  
いっつたい意識高い系でした。

僕は周りに友達がいないので、遊びに行ったり、飯を食べにいっ  
たりできません。

お金がないから仮に誘われても、断らざるを得ない。  
そんなこんなで、孤独で一人苦しんでいました。  
もういやだ。。。

だからこそ、普段とは違う環境に逃れたかった。  
もうそれが精一杯でした。  
意識を高くするしか、僕自身の心のより所がない状態でした。

そんなこんなで大学2年生の夏休みに差し掛かります。  
特にやりたいこともなく、やるべきこともない2年生の夏休みの期  
間を利用してフィリピンに短期留学行くことに決めます。

当時の僕は、2年生になっても人の気持ちがわからなく、プライド  
が高く、自己否定をしていました。

なんでもネガティブに考えて、  
自分が誰かに何かをしてあげることができない。

もうパンクしてしまいそう。。。

そんな矢先に短期留学の決定をしたので、  
「自分をどうしても変えたい」と決死の覚悟でした。

でも、僕は普段からな——んにも考えていなくて、  
ダルくて人ともあまり話したくないから留学ヤダ。

自分から留学に行く意思表示をして短期留学を申し込んだのに、  
なぜか行きたくなくなるジレンマ。  
自分でも意味ワカラン。

こんな経験をしたことがある方もいると思います。  
自分がやりたいことを自分で申し込んでおいて、途中から辞めた  
くなってしまう現象。

最初は、  
「よし、やってやるぞ。」  
って思ってたのに、途中から、  
「やっぱ、やめよっかな・・・」  
とか弱気になってしまう。

僕はまさにその状態でした。  
自分でも意味わからん状態でした。

でも、僕は環境を変えることをしないと、心の中に流れている血流が止まってしまう気がしました。

このまま人生が過ぎていったら、絶対に不自由だし、つまらない。

もう、人生に嫌気がさしていたので、僕にとって短期留学は究極の選択でした。

ただ、普通に会話することすらままならない僕が、外国で外国人と話すことなど、ぶっちゃけハードルが高過ぎです。

でも、一步踏み出してみないと、僕の人生は終了する。

絶対にやばい。  
と思いました。

だからフィリピン留学に行ってみることに決めたのです。

さて、日本から飛行機に乗って、フィリピンに到着です。

そこには、見たことがない世界が広がっていました。

フィリピンに着いての第一印象は「治安が悪そう。」でした。  
現地の空港についてからタクシーへの勧誘がすごかったです。

フィリピンの初乗りは百円もしないのですが、  
空港で変なタクシーに乗ってしまうと、  
ぼったくられる可能性があるかと聞いていたので、  
安全で信頼のおける会社のタクシーに乗ることに決めていまし  
た。

事前に調べていたタクシーに乗ったはずだったのですが、  
タクシーの運転ちゃんの運転が荒いこと荒いこと。

車線変更ばかりして、車を追い越しまくります。  
ジェットコースターに乗っている気分でした。

一般道でかなりスピードも出します。  
なんかラジオでも現地語で流れていて何言っているかわからな  
いし。  
めっちゃ不安。。。

そんな感じで初めてのフィリピンがスタートしました。

初めての語学学校。  
すごい人ばかりなんだろうな。

僕は英語がほとんど話せないし、  
消極的だし、フィリピンが怖くておっくうになっていました。

そんなこんなで語学学校でみんなの自己紹介がありました。

同じくらいの年齢の人が多い！  
少し安心。

僕は、プライドがめっちゃ高かったので、自己紹介を誇張しまくります。

できる人アピールをしていました。  
今思うと需要ねえよって感じですが。

でも、そんな僕にある先輩は積極的に話してくれました。  
「大学生なんだー！楽しんでる？あ、授業とか同じだね。よろしくねー！」

気さくで、僕のことを気にしてくれて嬉しかったのを覚えています。  
色々な会話をして、初日は終わります。

この出会いが  
人生を変えらることも知らずに。

未知の世界が広がるフィリピン。  
好奇心でワクワクする一方で、  
一人だと不安で押しつぶされそうでした。

でも、そんなことを誰にも言えずにせつかくの休みを部屋でゆっくりしようとしていたんですね。  
なんかフィリピン怖いし。

そんな矢先に、休みの日に同じ先輩に出かけようと誘ってもらいました。

道路に出たら、

道はデッコボコ。  
空気は悪い。  
炎天下でクソ暑い。  
急な雨。  
交通量が半端なく多い。  
道端で寝ている人がいる。  
今にも壊れそうな家。  
破れた服。  
物乞いしている人がいる。

どれも日本では感じられないことでした。

フィリピンでは、車がガンガン通っている中、横断歩道がなくても平気で歩行者が道路を渡ります。

僕は、  
「いやいや危ないぞ、車にはねられるよ。」  
と心の中で叫んでいましたね。

道路でフリーマーケットが幾度となく開催されています。  
日本人だからかわかりませんが、相手の要求する金額が高い。  
ぼったくられそうなのでスルー。

少し路地裏に入ると道はかなりデッコボコ。  
ヒール履いている女性は転ぶと思います。

まあ、ヒールなんて履いていたら、カモにされるのでダメですが。  
お金持っていると思われて色々盗まれます。

空気はすごく悪い。  
ジプニーという乗り物から出る排気ガスは真っ黒。  
タクシーも車もバイクも排気ガスの量がすごい。  
さらに、交通量も多いもんだから、現地の人でもマスクしている。  
帰って鼻かんだら真っ黒でしたw

しかも、クソ暑いんですね。  
汗が止まらない。  
炎天下でやだなーと思っていたら突然の雨。

さらに、降水量が想像以上に多い。  
雨が痛いレベルで降ってきました。  
タクシーが必須なのは、うなずけます。

道端で寝ている人がいる。  
日本でいうホームレスですね。  
でも、日本と違うのは、家族で寝ていたり、子供だけで寝ていたり  
するんですよ。

日本はなんだかんだ言って社会保障があるし、生活保護もあります。  
まだ働けるという理由で、生活保護が受理されないかもしれませんが。  
でも、働こうと思えば働ける環境は整っているんです。

フィリピンでは家族が路上で寝ています。  
社会復帰できる姿が想像できません。

今日、明日の飯のことを考えているので必死です。  
そもそも働くという概念も知らないかもしれません。

のちに知ることになるのですが、ゴミ山で暮らしている人はこんな  
ことを言っていました。

「私の子どもたちには  
夢がありません。  
貧しいために教育が受けられず、  
どんな職業があるかさえ  
知らないからです。」  
彼らはゴミを拾い  
それを売って生計を立てています。

格差がすごいですね。  
仕事がどういうものかを知らずに一生を終えてしまう人も世の中  
にはいるんです。

僕は帰国後にビジネスを始めることになりました。

僕がビジネスを頑張り続けることができるのは、  
フィリピンの情勢を目の当たりにしたからなんですね。

生活やビジネスをするのに、  
他国と比べて圧倒的に恵まれた環境にいる日本に住んでいる僕  
は、  
ビジネスを本気でやらないのは勿体無いと強く感じました。

話が逸れてしまいました。

そんなフィリピンの街に先輩と出かけることになりました。  
僕は特別な意欲もなく、なんとなく出かけるつもりでした。

でも、先輩に  
「せっかくだから現地の人に色々話しかけてみよー！」  
と言われました。  
メンドクセーって思いながらも渋々承諾します。

現地の人に話しかけてみると、なかなか伝わらない。

やっぱり  
「語学力が全然ない僕はダメなのかもな」  
と思いました。

先輩は楽しそうに現地のフィリピン人と話している。  
僕は自己嫌悪に陥ります。  
僕はダメなやつだ。  
先輩のように話せるようになりたい。  
けど、正直にそれが言えない。

帰ってからもそんなことばかり考えている。  
僕は何しにフィリピンに来たんだ？  
その答えが出ないままなんとなく過ごしている。

日本とは違う異国の地で、僕は何ができるんだろう。

そんな考えを巡らせながらもプライドが異常なほど高いので、誰にも話さない。

僕は病気でうまく話せないので、変なやつだと思われるんだろうな。

先輩もどうせ

「しょうがないから構ってやるか」

程度にしか思っていないんだろうな。

周りのみんなも怖い。

僕はどうせ嫌われている。

自己顕示欲はあったけど、

プライド高いし自己否定的なので話さない。

怖い。

話すともっと嫌われる。

頭の中でそんなループを繰り返していました。

辛くて寝れない。

誰か僕のことにも構って欲しい。

心の中のモヤモヤを全て取り払って欲しい。

僕の全部を受け入れて認めて欲しい。

そんなことばかり考えていました。

そんな絶望から救ってくれたのが、先ほどの先輩でした。

毎日明るく声をかけてくれる。

ちよくちよく見栄を張ったり、プライドが高い僕を受け入れてくれている。

だからこそ、だんだん心を開けるようになって、本音を少しだけ話せる気がしてきた。

いつのまにか、夜遅くまで僕の汚い部分や醜い部分の話を聞いてくれる間柄になりました。

僕は絶対に誰にも話したくないことまで、先輩に話してしまいました。

「これはヤバい。。。こんなこと言ったら精神異常者だ。。。」  
と思うことも優しくアドバイスしてくれました。

病気のことも言ってみました。

そうしたら、先輩も病気だったことを告白してくれました。  
元々はバリバリ働いていたそうなのですが、鬱になってしまい、療養も兼ねて短期留学に訪れていたそうです。

病気を抱えている同士で、境遇が少し似ていて話しやすかったです。

さらに毎晩毎晩、夜遅くまで深い話ことができました。

人望もあり、話も上手くて、能力もあり抜け目のない方でした。

僕の良いところや悪いところ、思考、性格、行動などからうまく分析して的確なアドバイスをしてくれました。

もちろん、僕は自分自身について分かっていたつもりでしたし、良いところは伸ばして悪いところは改善することを努めようとしていたつもりでした。

今でこそ、  
僕が自分でどういう人間だったかをわかっているつもりですが、  
プライドが高いこと、  
素直になれないこと、  
被害妄想がひどいことなどは、  
当時言われて初めて気づかされて、直そうと思えたんですね。

今まで実際に直接自分に言ってくれる人が僕の周りにはいませんでした。  
主観的にしか自分を見ていなかったため、  
自分の深い部分や他の人から見た自分については全く分かっていませんでした。

これは本当に、すごい恐ろしいことです。

僕は、自分のことだけで精一杯で、  
他の人を敵対視したり、  
自分に関わらないで欲しいとすら思っていました。

ただ、  
僕は人生に嫌気がさしていた自分に真剣に向き合ってくれた人に会えて、  
話を聞いてくれるだけでなく、  
アドバイスもしてくれる人格者に会うことができ、本当に運が良かったです。

先輩から「**自信をもって、行動しなよ**」と言われました。  
今の原動力になっています。

性格が大きく変わります。

感受性がすごい豊かになりました。

相手がどう思うか考えて、行動できるようになりました。

僕は先輩からのアドバイスを自分の心に刻みながら、自分で考えて色々実践していく中で、明るくなりました。

小・中学生の時に掲げた  
「自分の心を満たして楽しく魅力的な人になりたい！」  
という目標に現在近づけているような気がしています。

# ビジネスをやるきっかけにもなった出来事です。

さて、僕は帰国後に先輩の「自信をもって、行動しなよ」という言葉を胸に、実際に自分のやりたいことに向かって突き進みます。

僕は正直、リアルで対人で話すのも怖かったので、人に直接会って話をするというよりは、最初は場所や時間を選ばないインターネットを使って何かする方が自分に合っているのかなと漠然と考えていました。

さらに、僕はフィリピンで出会った陽気な人達に感化されて、ワクワクして楽しく過ごせるようになりたいなと思っていました。

最初は何もわからないので、イベントに参加したり、研究所のバイトを申し込んだり、インターネットで検索しまくったり。

色々な人に出会って、新しい考えを知ることができたり。圧倒的に能力が高い人に出会えたり。自分とは全く違う意見に触れたり。エネルギーッシュな毎日を過ごしていました。

ただ、僕はお金がありませんでした。  
さらに、病気でうまく話せません。  
さらに、コンプレックスが半端なくありました。

帰国してから気持ちは高ぶっていましたが、  
辛い状況が急に変わるはずがありません。

家賃が月にわずか2万円のアパートに住まざるを得なかったし、  
食費も月にたった1万円に切り詰めていました。

授業もあるし、課題もあるし、空いた時間を見つけてバイトもして  
いたので、他に何もできませんでした。

先輩のおかげで少しだけ  
「自信を持って、行動できる」  
ようにはなりましたが、  
金銭的にも時間的にも自由で楽しい生活とはほど遠かったです。

うまく話せないし、友達にも病気のことを話せませんでした。  
まだ、プライドがあったんでしょうね。  
モヤモヤが拭えなくて辛かったです。

そうこうしているうちに、たまたま知り合った大学の先輩から  
月収500万円と名乗る方の話を耳にします。  
20代前半の方です。

# 月収500万？！

わけわかりませんでした。

年収の間違えだよな？  
年収だったとしてもスゲエけど。  
何だこれ？詐欺だよな？  
嘘に決まってるやん。。。

最初、僕はもちろん疑いました。

自分の常識では月収500万円稼ぐなんて論外だと思ってたからです。

しかし、僕は信じてみようと思いました。

『もしこれが本当だったらなんて刺激的な人生を送れるだろうか。』

そんな問いが僕の思考回路を駆け巡りました。

怪しさよりも興奮度合いの方が大きかったです。

というのも、

「貧乏だったから」

「病気になったから」

「周りの人間に対してコンプレックスを抱えていたから」

これら3つから抜け出す可能性があるからです。

当時はプライドが高かったために、  
コンプレックスがあると口に出すことができませんでしたけど、  
潜在意識にはバリバリあったんでしょうね。

貧乏で、病気で、コンプレックスだらけだった。

だからこそ、  
ビジネスの世界というのは、  
魅力的にしか思えませんでした。

かつてこれ以上に僕の中で、  
炎が燃えることはありませんでした。

僕が変わる千載一遇のチャンスでした。

最初は新しい異世界を拒んでいた僕も、  
ビジネスで稼いで刺激的な毎日が送れることから頭から離れなくなり、  
好奇心が次第に強くなっていきました。

ビジネスを学んでいったら、  
「自分の心を満たして楽しく魅力的な人になりたい！」  
という目標にも近づけるような気がしました。

このままでは、未来の何も希望を持ってないゾンビになってしまう。  
だから未来の自分のために勇気を出して一步を踏み出しました。

フィリピンで出会った先輩も心の中で背中を押してくれました。  
「自信をもって、行動してみなよ」  
この言葉も助けになりました。

僕はとりあえず、月収500万円の人メルマガに登録してみたのです。

そしたら毎日配信されてくるメルマガの中身は僕の常識をぶち破り新しい価値観を次々に教えてくれました。

今までの価値観も何もあったものではありません。  
崩壊です。価値観の崩壊です。

常識にとらわれて信じていたものなんて、一瞬でなくなりました。

例えば、  
労働時間は給料に全く比例しないということに気づけました。

月収500万円を達成していた人は、必死に労働していたわけではありませんでした。

お金を稼ぐ仕組みを作っていて、  
忙しいわけではなかったのです。

当時の僕にとっては意味わかりません。  
僕が時給800円とかのバイトで必死にお金を貯めている時に、  
月収500万円を達成した人は労働しないで、いとも簡単にお金を稼いでいたのです。

ここで自分の常識なんて全く意味ないなと思いました。

当時の僕にとっては衝撃的で、  
毎日血眼になって目をギラギラさせながら読んでいたのを僕は  
今でも忘れません。

楽しかったんですね。  
僕の人生を激変させました。

そして、

僕のビジネス人生が2年生の春休みからスタートするのです。

ここまでが、  
ビジネスを僕が始めるまでの背景です。

その後、1か月であっさり30万円ほど稼ぎます。

その後も次々と収益を重ねて、  
月収50万円ほどの金額を安定して得るようになります。

僕に才能があったとか、ビジネスの知識や経験があったわけでは  
ありません。

高校や大学の同期に聞けば一発でわかるし、  
文章やプレゼンが上手いなんて口が裂けても言わないでしょうw

それくらい本当に何もできませんでした。

プライドが高いし、素直になれない。  
自分の感情と向き合うこともできない。

そんな人間でした。

ですが、そんな人間でも変わります。

僕は今では月収50万円を軽く稼いでいます。

このように僕の人生は、  
本当に激変していきました。

そしてこれからも日々学んで、  
勉強して常に進化していきたいと思っております。

僕は「ビジネス」というものを知り、  
「自由で充実した日々」を送っています。

様々なビジネスに挑戦しながら、とても刺激的な毎日を送っています！

「貧乏だったから」

「病気になったから」

「周りの人間に対してコンプレックスを抱えていたから」

のうち

「貧乏だったから」

「周りの人間に対してコンプレックスを抱えていたから」

の2つの悩みは無くなりました。

「病気になったから」

この悩みはうまく付き合っていくつもりです。

ゆっくり心を落ち着かせながら、現在も療養しています。

だからと言ってコンプレックスに感じることはほぼなくなりましたし、  
辛いと感じることもほとんどなくなりました。

僕は

「自分の心を満たして楽しく魅力的な人になりたい！」

という目標に着実に近づけているし、

僕のモットーである、

「自由であれ、充実であれ」

を自分でも享受しつつ、今後も周りの人と共有していくつもりです。

これからも、  
自分をどんどん高めて成長していきます。

フィリピンでの素敵な出会い、そしてビジネスとの出会いに感謝  
です。

僕の「人生を変えてくれました。」

終わり。

今までの人生を細部までこだわって振り返っていく中で、  
自分の嫌いな部分と向き合わなければならなくて、正直無茶苦  
茶つらかったし、悪い意味で心が動かされました。

目頭が熱くなって涙が出そうになったこともありました。

今まで色々なことがあったな。

自分が今までどう生きてきたかを知ることで、  
頭の中がちゃんと整理されて、  
自分が知らない自分に気づけたり、  
発見することができて驚くことが多々あった。

なんせ普段過去をしっかりと振り返ることなんてやらないので、  
得られるものがすごく大きかった。

だからこそできる限り自分の素直な気持ちをぶつけてやろうと  
思った。

そして僕がリアルな自分をさらけ出すことで、  
みなさんに何か1つでもいいから感じ取ってもらい、  
人生をいい方向へと導くきっかけとなればいいなと思います。

改めて、ここまで読んでくれてありがとうございました。

感想はいつでもお待ちしております。

## くま

月収50万稼ぐくまの無料メールマガジンは下記リンクから登録で  
きます。

<https://bit.ly/3tnbiDt>